

< 目 次 >

1 新春に思う“防災・減災の思い”	あいち防災会 会長	早川 澄男
2 新年のご挨拶	西尾張ブロック代表	尾関 博
3 平成25年度ボランティア活動功労者受賞	本部広報部	藤井 芳弘
4 第3回防災人材交流セミナー		
5 備えの大切さを確認 清須市総合防災訓練	清須支部	吉田 陽一
6 稲沢市福祉まつりでの防災啓発活動	稲沢支部	鶴飼 治夫
7 ふれあいフェスタ2013に参加して	北名古屋支部	山崎 澄雄
8 豊山町総合防災訓練に参加して	豊山支部	林 美智子
9 大口支部の活動状況	大口支部	大竹 伸一
10 ワイワイフェスティバル ナマズ君 犬山に	犬山ブロック	飯田 栄子
11 こうなん市民まつりでの防災啓発活動に参加して	江南支部	今井 節子
12 あいち防災研修会・西尾張ブロック「災害体験・対応ゲーム」	研修部	玉腰 一義
13 「あいち防災リーダー会 犬山 愛知県知事に表彰		高木 優
14 掲示版・お知らせ		

1. 新春に思う“防災・減災の思い”

あいち防災会 会長 早川 澄男



平成26年 元旦 明けましておめでとうございます。
皆様もご家族様と一緒に新たな新年を迎えられ、今年の抱負を語らいあったことでしょうか。今年もよろしくお願ひいたします。

皆さまはじめ先輩諸氏のご支援ご協力のお蔭でここまで活動ができ、あいち防災リーダー会も11回目の新年を迎えることができましたこと感謝申し上げます。

このあいち防災リーダー会も700名程の会員で活動し、これまでの活動に対して、1昨年には、防災担当大臣から、昨年は、愛知県知事から表彰を受けました。念頭に当たり、これに恥じない活動を継続しなければならないと痛感しました。今後とも皆様方と相互連携と相互啓発をしながら、防災・減災の輪を広げてゆきたいと思っています。

この輪が地域における防災安心まちづくりの力になるものと信じて活動させていただいております。その1つとして、平成25年度から、研修会も役員会も各ブロック(各地域)持ち回りで開催するように改善しました。研修会の参加者も多くなり、また地域の特徴ある研修内容ともなり、新鮮で且ついろいろの地域からの方々との再会やコミュニケーションもとれ、参加者からも好評を得ました。今後も継続してゆきます。

また開かれた役員会にもオブザー参加して頂いております。あくまで、役員会は、連絡会方式で、地域連携ねらいで開催しておりますので、この点でも各地域持ち回り開催が評価できま

す。今年は、オブザーバーの方々からも、ご提案をいただくような工夫もして、活動や運営の向上を図ってゆきます。

昨年愛知県防災局との連携活動をする旨、防災に関する覚え書を締結しました。そのお蔭で今まで以上に愛知県防災局との連携活動が強化されました。その1つとして愛知県教育指導者研修会(受講者1200名以上)は、あいち防災リーダー会が、共催名で企画推進いただきました。ますます地域における学校防災教育活動が期待されます。学校から防災教育の要望があれば、今まで通り各ブロックでお引き受けをお願いします。またこの研修会でお逢いしたそれぞれの地域の学校へも間を置かずアプローチして、防災・減災の輪を広げてください。

次に、地域防災リーダー養成講座の開講として、あいち防災リーダー会講師の下、日進市、稲沢市も開講していただきました。また、県防災局から、啓発支援(行事・訓練・展示・講座・講話等)要請や情報もあり、それぞれみんなで手分けして対応しております。これからも愛知県防災局と連携をとって活動してゆきますのでご承知おきください。

皆様にはお願いですが、少々遅れています「APLA10年誌」、この10年を振り返り、先輩諸氏も現役さんもこれまでを振り返り、またこれからこうしたいなどの抱負でもよいので、熱い思い(ワード仕様で文字の大きさ12級)を各ブロック広報部長へご寄稿ください。手書きもOKですよ!

今年も良い年であります様に、ご祈念申し上げまして、新年のごあいさつにさせていただきます。

2. 新年のご挨拶

西尾張ブロック代表 尾関 博



新年明けましておめでとうございます。
新しい年を迎え、会員の皆様のご多幸をお祈りいたします。

昨年は、台風の被害の伊豆大島を始め、全国的に水害が多発し、多くの方々被害にあわれました。また、フィリピンでは台風30号の被害が多数の死者・不明者や被災者がでて、今現在も日本の自衛隊も国際援助隊として派遣されています。

気象庁では、昨年8月30日に特別警報の運用を開始しました。豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、最大限の警戒を呼びかけます。

東北大震災も12月には、発災から1000日がたち、まだまだ復興が進んでいない状態が続いています。

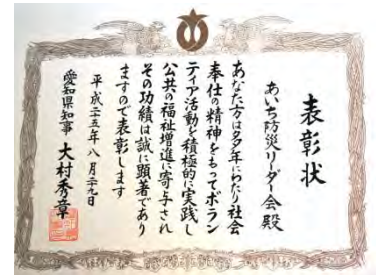
一方、我々リーダー会は、いつ来ても、おかしくない南海トラフ巨大地震に備えて、自主防災会等に減災・啓発活動をしてきました。愛知県教育委員会は、小学校・中学校・高校の先生方に対して防災教育指導者研修会を開催し、学校防災の必要性からリーダー会も共催し地域の学校の先生方と顔の見える関係になるよう各支部の会員に参加していただきました。

今年も一年間、会員の皆さんと一緒に地域の減災、防災啓発活動に昨年以上に取り組んで行きましょう。また、自分の減災・防災の知識の向上のため、各種講習会・講演会に積極的に参加しましょう。簡単ではありますが、私の新年の挨拶とさせていただきます。

3. 平成25年度ボランティア活動功労者表彰を受賞しました

広報部 藤井 芳宏

昨年の防災担当大臣表彰に続き、今年は愛知県の表彰を受賞いたしました。10年以上に渡りボランティア活動を行っているもので、個人にあっては年12回以上、団体にあっては月1回以上のボランティア活動を行い、顕著な事績を収めたものに授与される。参加者は早川会長藤井広報部長の2名。表彰式は8月29日(水)午前11時より県庁本庁舎 2階講堂で開催された。受賞者個人16人・36団体。



□ 知事挨拶(前半手話を交えながら)：

受賞おめでとうございます。皆様が前向きに献身的に活動されている姿に心から敬意を表し感謝致します。地域における住民の結びつき、家族の結びつきが希薄になっている昨今、生活に密着したボランティア活動はとても重要で欠かすことは出来ません。

愛知県では愛知万博から多くのボランティアに活躍して頂いています。トリエンナーレ2013には1300人のボランティアが会場運営をします。愛知県としても支援をいたしますので、さらなるご協力をお願いし皆様のご活躍とご健康を祈念致します。

この後にも来賓代表の県議会議長の挨拶がありました。



□ 早川会長談話：

10年以上にわたるあいち防災リーダー会の地域における防災・減災活動とりわけ、地域防災活動とその支援が表彰対象となりました。この受賞は通過点であり、これからのあいち防災リーダー会の益々の活躍を期待するものでもあります。これまで以上に各位のご努力と連携により、活動される事を祈念いたします。ありがとうございました。

4. 第3回防災人材交流セミナー

広報 藤井芳宏

2013年12月14日(土) 名古屋大学 豊田講堂 13:00～



□ 愛知県防災局長挨拶 小林 壯行氏

今年も色々な災害が発生しました、こんな時は何よりマンパワーが必要です、皆様の力が必要です。

□ 名古屋大学 減災連携研究センター長 福和伸夫教授挨拶

福和先生の挨拶の冒頭に緊急地震速報が出ました。リアルタイムで実況

先生は新しく出来た減災館の説明をされました。楽しみです！3月後半にはお披露目です。
あいち防災リーダー会の総会も4月19日に新しい減災館で開催予定です。

《基調講演》南海トラフ巨大地震に負けないために～防災・減災の優先課題を 考える6つの提案

講師：法政大学大学院講師(元板橋区危機管理担当部長) 鍵谷 一 氏

東日本大震災から2年過ぎ被災者は疲れ切っている、当事者
以外の人意識も遠のいているがこれは良くない。
これからも手を差し伸べて行かねばならない。



大災害は忘れない頃にやってくる。
釜石で伝えた『避難の三原則(片田先生提供)』

【想定にとられるな】→「ハザードマップを信じるな！」

浸水想定区域外であったにも関わらず、避難対策をしっかりとっていた

【最善を尽くせ】→→→「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく最善の対策を取れ
予め決めておいた避難所よりも、さらに高台へ避難した

【率先避難者たれ】→→→「まず自分が避難する事」その姿を見て他の人も避難する
避難する中学生を見て、小学生は校外へ避難した

正常化の偏見を打ち破る「自分は大丈夫」

・自分にとって都合の悪い情報を無視したり過小評価してしまう人間の特性

例：逃げない非常ベル…初着のリスク情報の無視

・物事を変えるのは人しかいない！ 人を変えるのは教育しか無い！

結局は防災教育が一番・知識だけでは足りない。

・知識を行動力に変えるのは訓練に飽きないように工夫を凝らして繰り返し訓練

提案1：心に堤防を築く！

・学校と家庭と地域の継続的連携が重要

(世代間で心の堤防が継承され、災害文化として定着させる)

・兵庫県南部地震による神戸市内の死者(関連誌を除く)死因分析

凶器はマイホームだった(83.3パーセントが建物倒壊棟による)

・災害が起きて復興にお金がかかるが、災害が起きる前に住宅耐震化対策をした方がはるかに安く済むし家屋倒壊による死亡者も減らせる効果的な長期投資

全国の木造1000万戸の耐震化をしないと30年間で地震被害300兆円～
500兆円の被害発生

耐震化した場合＝耐震化に要する費用 3兆円～10兆円で済む

(一戸当たり30万円～100万円)

提案2：何が何でも耐震化

・地域のリーダーがけがをすると応急、復興活動が止まる。

・地域のリーダーが耐震化すると、地域も耐震化が進んでいく

・お金は地震保険の政府積立金⇒8千億円 事前復興宝くじ⇒毎年5千億円

提案3 要援護者の減災プラン

- ・事前対策を一緒に考える
木造住宅なら2階に寝る タンスの下敷きにならない
水と飴玉を備蓄する
- ・あんしん箱→要援護者一人ひとりが緊急時に必要な物を入れた箱
- ・家族の情報→家族の写真・住所、氏名、ニックネーム
- ・障がい名、病気名薬
アレルギー・連絡先(親戚、友人、病院、行政)
- ・SOS ファイル→知的障がい者一人ひとりが、自分だけの「SOS ファイル」を持つ



提案4 災害時優先携帯電話の指定

- ・消防団員や自主防災会幹部の携帯電話は、災害時優先携帯電話に指定する。
- ・決め手は「ご近所力」→人や地域のつながり＝信頼の絆＝ご近所力
- ・消防団、町内会・自治会がしっかりしていれば、支援が入りやすい＝受援力をつける！

提案5 自治体職員と同様に地域リーダーを育てる！

- ・災害時に最適な判断、行動ができる人間力が大切、人がいなければ動かない
- ・消防団員、自主防災会は地域防災の担い手→平時の地域力・組織力を高める
- 〈案1〉キャンペーン
例)100万人のキャンドルナイト「でんきを消して、スローな夜を」
打ち水大作戦「地球の気温を2度下げよう」みんなが参加出来る仕掛けを！
- 〈案2〉担い手を広げる→一緒にやるしかない
人材資源の活用人にはそれぞれ特技がある
- 〈案3〉作戦本部をつくる 中心がなければ始まらない！
企業人⇒戦略作り、システムづくり
情報支援
福祉・医療人⇒健康づくり衛生環境づくり
子育て⇒ママ友、子どもの預け合い
学習支援 高齢者支援⇒日常からの見守り、サロン活動
- 〈案4〉活動を行う 活動しなければ広がっていかない



提案6 MLCP 民・学・公・産の有志の一般社団法人を地区防災計画に！

(MCLP: Mansion Life Continuity Association の略称)

- ・市町村の居住者等から地区防災計画を提案できる→
市町村が認めることで公的な性格を持つ
- ・地区防災計画制度の全国展開

《事例報告》本稿防災教育のあゆみ

講師・半田商業高校 教頭 白井 上二 氏



白井先生が赴任して4年 初年度は防災について何も知らない。

とにかく積極的に学ぼう！を合い言葉に以下の活動を行った。

- ・21年度：「愛・地球博」の基金を活用
生徒が防災教材を製作「防災教材製作推進委員会」を発足
- ・22年度：出前授業
「デジタル防災紙芝居」上映 防災O×クイズ 「防災グッズ」の紹介
「防災子供ノート」作成 「東日本大震災」体験談（石巻市の高校生を招いて）

- ・23年度：石巻市より転校生！復興支援活動がしたい！
半商ハートツリー・プロジェクトの起ちあげ
地元の農園に寄付を頼みハートの木 1,160 鉢を販売し義援金 3,512,204 円を贈った。
- ・24年度：被災地の生の声を聞いた
「被災した時に必要な物は何か」各家庭で準備を始めるきっかけにして欲しい
地元企業と非常食の商品開発
- ・25年：商業高校生として推進すべきこと！ 「ごぼんだ（非常食）」の販売

これらの活動を通して『防災教育は生きた道徳教育である』ことを痛感

《事例報告》地域防災活動～地元で根ざした活動を継続して

講師：あいち防災リーダー会

海部ブロック防災ボランティアおおはる 代表 伊藤 芳枝 氏

あいち防災リーダー会は愛知県6ブロックに分かれているがその中の海部ブロックは7グループ 会員数 118 名が地域で活動をしています。その中の防災ボランティアおおはるの活動を紹介します。



設立は平成16年4月 目的は「自分の命は自分で守り、大治町は皆で守ろう！」

この10年間近くの活動は防災に関するあらゆる事は全て実践しておられると感じました。

あらゆる研修開催・美味しい非常食づくり・味噌玉づくり・災害支援活動・出前講座・防災キャンプ・防災グッズ・子供への防災啓発での防災ビンゴ・紙芝居・防災塗り絵・ナマズン釣りほか多くのアイテムを持って素晴らしい活動をされています。

最後に彼女の思いを伝えられました。

□ 我をはるつもり違い 思い違い10カ条

- | | |
|----------------|----------------|
| ・高いつもりで低いのは教養 | ・低いつもりで高いのが気位 |
| ・深いつもりで浅いのは知識 | ・浅いつもりで深いのが欲 |
| ・厚いつもりでうすいのは人情 | ・薄いつもりで厚いのが面の皮 |
| ・強いつもりで弱いのが根性 | ・弱いつもりで強いのが我 |
| ・多いつもりで少ないのは分別 | ・少ないつもりで多いのが無駄 |

《事例報告》山田組と地域の防災大会

山田組 取締役管理部長 毛利 尚弘 氏

すべては名古屋市中川区供米田学区地域防災大会から始まった。

出来ない・やれない理由はすぐに見つかる。
始めなければ始まらない。

ここから2005年から毎年地域防災大会が開かれるようになった。



第1回地域自主防災大会声明

「地域のコミュニケーションを深めよう」

「防災のアクションを起こしていこう」

「学区での回覧&次年度の開催」

ところがどっこい！ 疑問がわいた

- ・これで本当に助け会えるだろうか？
- ・顔の見える関係とは何だろう？
- ・地域（相手）にとって何が必要（苦手）なのか？

つながりが能登行きで始まった。なごや環境大学共育講座など



結びに・・・・・・委員長の言葉

“防”の付く言葉：防災・防犯・防火⇨地元愛 郷土愛
骨身を惜しまず働かねば人はついて来んで

《事例報告》命をまもるための私達の防災教育 名古屋市立内山小学校 3年生
内山小学校三年生 22名がの防災に取り組んでいる様子を発表してくれました。

防災センターに行き震度7の体験・火災の体験・・・・町で地震について赤ちゃんを連れて
いる人、おばあちゃんに話を聞きました、そして学区を守ってくれているおまわりさんにも聞
きました。今池に働きに来ている人、お店の人にもインタビューしました。

自分の命は自分で守る事の大切さ、地震が起きて困っている人がいたら声をかけようという
気持ちが湧きました。町歩きで身近な所に危険な場所がいっぱいありました。また安全な避難
場所も見つけました。

元気いっぱいの発表で最後に花は咲くを合唱してくれました。



この後レスキューの栗田氏の司会で全体ディスカッションがあり最後のまとめがありました。

鍵谷先生・・・・今日の事例発表を聞いて力を貰いました。素晴らしい活動をされていると感動
しました！復興はひとしかない、人づくりに関っていくと学ぶことが増えるそ
の事によって強くなっていく

福和先生・・・・人がすべて集まって行動できる一步を踏み出す事が大切である
発表された三人のお話でヤル気になればどんな事でもやれる、上杉鷹山の「為
せば為る、為さねば成らぬ何事も、為さぬは人の為さぬなりけり」を思い出
しました。評論家にならないように、身近な所からはじめる、行動してくださ
い・・・・伊藤さんの10カ条が印象に残りました。
減災館も完成します大学を活用してください。

5. 備えの大切さを改めて確認 清須市総合防災訓練 清須支部 吉田 陽一

9月7日（土）メイン会場、清須市新川グラウンドで、市民724名が参加訓練を 例年通りの流れの中で、地域の自主防災会が21地区で避難所開設し被災者の受入れ準備、自衛隊の炊事車で炊いたご飯をおにぎり400個に握っての炊出し訓練、体育館では、避難所で利用される障害者用トイレや被災者が過ごための間仕切り組立て訓練が加わった。



当支部は、防災啓発として

家具固定パンフ紙芝居・防災ぬりえ・避難所運営ゲーム・クロスロード・防災カードゲーム・災害用トイレ・紙スリッパ・防災かるた

などの防災訓練アイテムの展示を設営した。

来年度は、市としてリーダー養成塾も計画があり、当支部もさらなる防災啓発を推進したい。

6. 稲沢福祉まつりでの防災啓発活動 地域ボランティア活動を考える

稲沢支部 鶴飼 治夫

10月26日・27日の両日「稲沢市福祉まつり」が開催されました。

当稲沢支部はブースを設置し家具固定の仕方・ぶるるをつかった耐震化説明・防災クイズを活用した防災意識の確認(関心を高める)等で多くの来場者に防災・減災への備えをPR出来ました。

特に防災クイズでは設問1つ1つ戸惑う人があり、疑問に答える形で子供から高齢者まで積極的に取り組んでももらいました。また稲沢市が行う防災セミナーへの参加を呼びかける事で防災意識の高揚につなげました。

多くのボランティア団体の活動を目にして高齢者・子供等に防災・減災の啓発(地域全体で守る事)の大切さを感じました。

地域社会に潜在する様々な災害危険(地震・風水害等)を察知し減災につなげられるかは「地域」であり「地域コミュニティー」であると考えます。今後もこうした活動の場を広め、他リーダー会支部の活動に邁進します。

7. ふれあいフェスタ2013に参加して

北名古屋支部 山崎 澄雄

11月23日(土)勤労感謝の日、午前8時30分集合、北名古屋健康ドームにおいて北名古屋健康ドームにおいて、北名古屋市主催、社会協議会共催で市民団体のもと、ボランティア・環境・福祉・健康・アナザーをテーマに多数の市民の来場がありました。

ボランティア体験コーナーでは、ガイドヘルプ、点字、手話、要約筆記、車いすなどの体験、私たち防災ボラン





ティアはロープワーク、ぬりえ、エコカップを作るコーナーを設け、防災ベスト、災害時トイレ(簡易)非常備蓄リストなどの展示を行いました。今回は子供連れの人が多くぬりえコーナーが人気でした。

ぬりえは、はれるん、つじぼん、つじふん、防災ナマズンの三種類でした。また此のコーナーでもスタンプラリーの対象になるので、それぞれに参加していました。

東海・東南海・南海・三連動の大規模災害が懸念される昨今、このようなイベントを通じて、市民の皆様に防災意識を高めていただけるような活動をしていきたいと思えます。

8. 豊山町総合防災訓練に参加して

豊山ブロック 林 美智子

9月11日 豊山町総合訓練が行われました。東南海沖地震が発生し豊山町も数か所被害にあった事を想定し訓練をしました。陸上自衛隊・警察署・消防署等公共機関の協力で水道、ガス電気のライフラインがストップしたとの想定のもと、各企業の普及活動、大山川の決壊による町の消防団が「土嚢」作りをして、堤防の修復作業をしました。町の養成により、赤十字奉仕団員が炊き出し「ハイゼックス」作りをして参加者にも配布しました。



《ハイゼックス包装食品づくりの体験》

今年度は春日井市内の高校生の生徒がボランティアとして参加し、各グループに分かれ「はしご車」による高所救出、炊き出しを使ったハイゼックス包装食品作り、消火器による消火訓練等を体験し、高校生は「いろんな体験が出来てよかったです」と喜んで帰って行きました。



6月には各小学校(3校)の自主防災訓練があり、各小学校によって体験科目はちがいましたが趣向を凝らして炊き出し・ハイゼックス豚汁・AEDを使った救急方・パンティーストッキング三角巾を使っての止血など住民参加型でやりました。

また「なます号」の地震体験車は揺れのすごさに驚愕する場面も・・・年配ばかりではなく若い世代にもこれからは参加意識をもっていただければと思います。

ご参考)ハイゼックス(三井化学株の商品名)

高密度ポリエチレンの一種、引っ張り強度・剛性が強く耐衝撃性に強い。また耐熱安定性、長期間の耐候性などに優れていることから袋状に加工され食品の保存にも使われる

9. 大口支部の活動状況

大口支部 大竹 伸一

大口支部では 防災関係に関しての周年企画として9月に町行政と町内11地区で、1地区10名ずつの参加で、総勢150名程の防災訓練を行っています。



この訓練には町行政と大口町社会福祉協議会からの依頼を受けあいち防災リーダー会の会員が所属する「災害救援ボランティア」の団体も協力し図上訓練(DIG)講習、傷病緊急事態の対処などの訓練も行いました。また11月の第1土日には町民ふれあい祭りを開催され、当会場では先のあいち防災リーダー会の会員、さらには当団体の「災害救援ボランティア」の方による災害時の非常避難具の作り方、炊き出しなどを行い、災害時の避難意識の向上に努めています。

更には今年度で4回目となる大口町社会福祉協議会からの依頼を受け、災害養成講座フォローアップ講座を5回に分けて行いました。

- 1日目 11月 9日(土)
オリエンテーション 丹羽消防署による災害時による応急
- 2日目 11月16日(土)
愛知県防災局防災危機管理課 政策啓発グループ主任 高柳 幸央 様のご講演
- 3日目 11月25日(月)
名古屋大学環境総合会館にて 福和伸夫センター長の語録講和 など
- 4日目 11月30日(土) 図上訓練(DIG)講習
- 5日目 12月 7日(土) 災害ボランティアセンター立ち上げの講義と運用訓練

など避難所への通路の危険箇所や通学路の危険箇所、1人暮らしの方の避難経路などを地区ごとに図面に落とし込むなど、町民・区民の方に危険意識の向上へと繋がるであろうと強く確信いたしました。

昔からの 伝言言葉で 向こう三軒両隣と言われる様に、近所の方々とのコミュニケーションがやはり大切ではないでしょうか。この様な大訓練の積み重ねが男女・老若の方々にも風水害・地震災害など危険という意識、我が身は自分で守るという認識が養われると強く感じました。

10. ワイワイフェスティバル ナマズ君 犬山に 犬山支部 飯田 榮子

10月13・14日の二日間、犬山市民会館にて秋の商工まつり ワイワイフェスティバルが開催され、当日は秋晴れの好天に恵まれ、防災ナマズ君が犬山市民会館にお目見えすることになりました。

楽屋ではナマズ君の着付けのメンバーが奮闘中、そして楽屋から会場の入り口迄が多くの障害



があり大変でした。ナマズ君の視野が狭く歩く事も段差につまずきながら、やっと会場入り口に立ちました。いざ本番一步前進、とたんに多くの子供達の歓迎の挨拶を受け、手や胴体にポンポンとたたかれ 痛い・・・

会場内はナマズ君が現れた事に皆が注目です。犬山はマスコットわん丸くんがいますが、今回はナマズ君と仲良く一周を40分位かけて回り皆を喜ばして



た。
メンバーは大量の汗でした。メンバー達は次々とバトンタッチ、終わりまでの間6回ほど着包をして災害アピールをし、了。

啓発チームは会場出入口での場所で防災啓発を行い、大勢家具の転倒防止のデモをし、その状況がどんなに悲惨な事が、カスの感知器の設置後の管理と電池切れ、非常用持ち出し等を見てもらい多くの質問を受けました。

① 何日分の食料を用意すれば良いか

② 非常持出袋はどんな場所に置いたら良いのか

③ ペットはどうなるか

帰りにリーダー会作成の非常持出し品ゲーム・パンフレットを皆さんに渡し自宅で再度見てもらうように、お願いをしました。

私達あいち防災リーダー会犬山では、毎月3～4回位での地域自主防災講和をしています。活動内容は、南海トラフの説明・家具転倒防止・ガス感知器の設置と電池切れ等の説明。活動を通して災害が少しでも減ることを期待いたします。

11. こうなん市民まつりでの防災啓発活動に参加して江南支部 今井 節子

10月5日 {土} 6日(日)の2日間でこうなん市民まつりが開催されました。午前9時にすいとび江南で「ドカーン」と花火の合図で開会セレモニーがあり、台風18号の影響で中止にるのはと心配していましたが、今年も無事に「こうなん市民まつり」が開催されました。



今年は、昨年の来場者の4割程度少なかったが、あいち防災リーダー会こうなんのブースには、大勢の方が来て頂けました。江南市の公式キャラクター藤花ちゃんも来てくれました。



非常持出品・備蓄品・簡易トイレ・家具転倒防止の器具・金具等を展示し、わたちは、来てくれた人にリーフレットを渡して説明、啓発活動をしました。

耳を傾けた人の中に「何処へ行けば購入できるのか」「ここで購入できるのか」質問され「100円均一」「ホームセンター」を紹介しました。ある人に「備えあれば憂いなし」「分の命は自分で守る。「減災に心かけてほしい」と伝え、非常持出品ゲームを家族で話合って頂くように、お渡ししました。そうしたら翌日に他の人を誘って再度来場されて、びっくりやら嬉しいやら・・・私達の啓発活動を通じて、少しずつではあるが、防災意識がたかまったかな・・・

2日目は防災塗り絵（10数種）でラミネート加工をして下敷きの代用として記念に配布。金魚すくい・ヨーヨー釣りのゲームなどの遊びも交えて、子供達に少しでも防災の事を知ってもらうために呼び込みもしました。

スポーツ少年年団・ボーイスカウトの子供達が団体で来てぬりえをしてくれました。

「来年も来てね」と声をかけました。

2日間で残念なことが・・・実は、展示してあった簡易トイレの中がなんとゴミの山に、非常識な人がいました。

犬山支部・扶桑支部・北名古屋支部の皆さん、応援有難うございました。

12. あいち防災研修会 西尾張ブロック「災害体験 対応ゲーム」

研修部 玉腰 一義

平成25年度あいち防災リーダー会西尾張ブロック研修会「災害体験・対応ゲーム」が11月30日一宮市尾西生涯学習センターにて26名の参加のもと開催されました。

このゲームは、昨年3月にブロック総会後に実施しましたが好評につき再度実施したものです。

淡路島にある兵庫県立舞子高等学校の授業で行われているカードゲームで、尾崎代表が少しアレンジしたものです。

参加者が8班（市民、学校、行政、病院、警察、消防、マスコミ、自衛隊）に分かれて時々刻々と変化する状況下で、与えられた情報をもとに、災害時情報の収集能力、判断力、合意形成能力・・・などが試されます。

カードを講師の指示で1枚毎めくり、担当班内で話し合い記録、各班に訪問して情報を取りに行く、記録して情報の共有化をはかり行動していきます。

参加者は、各班に情報をとりに行くため狭い部屋に中を動き回ります。

今まで体験したことのないカードゲームでした。

カードの内容をもっと身近な家族、自主防災会の担当者、会長、消防団、〇〇医院、小学校・保育園、広域避難所・・・と変化させる事も可能です。

自分でもカードゲームを作ることで災害対応ができるかも！

次回は3月23日扶桑町(予定)で開催します。体験を増すことで自分自身の対応力を高めることができると思います。是非ご参加下さい。



13. あいち防災リーダー会犬山 愛知県知事 表彰」 犬山支部 高木 優



あいち防災リーダー会犬山は、永年に亘り地域の防災・減災・活動に貢献したとして、平成 25 年 11 月 10 日、あいち地震防災の日で開催された「あいち防災フェスタ・防災&ボランティアフォーラム」の席上で愛知県知事から表彰されました。

あいち防災リーダー会犬山は現在 31 名の会員で組織され「犬山市の防災組織下で活動する防災ボランティア団体」と位置付けして頂いています。

活動内容は、行政及びの要請により町内自主防災会の防災訓練に参加、防災、減災の啓発活動組織の活動等を実行しています。

犬山市全体の町内会は、320 町内会で 25 パーセントの実施率になります。

その他、5市町合同防災カレッジ養成講座、犬山市災害ボランティアコーディネーター養成講座老人のための防災講座（老人会）少年消防署クラブ員中学生防災教室等の講座にも参加協力しています。今後も、行政、消防署の指導の下より一層の協力関係を維持し安心、安全な街づくりのために尽力していききたいと思います。



14. 掲示板・お知らせ

※ 26年度 西尾張ブロック総会

日 時：3月15日(土) 午後1時30分～

場 所：北名古屋市「もえの丘」

その他：総会終了後研修会「支部活動状況を発表会」実施

発表は一宮・稲沢・犬山支部の3支部に依頼 選考し本部総会で発表する

お願い：例年のブロック総会の出席率が低く(25年度は会員数 154 名中出席者 31 名

出席率 20%)苦慮しております。

26年度は出席率 50%を目指しますので各支部のご協力と会員各位のご支援をお願い致します

※ 第4回ブロック幹事会

日 時：1月25日(土) 午後1時30分～

場 所：名古屋文理大学文化フォーラム(旧稲沢市民会館) 講習室1 稲沢市明寺町 3-114

※ 第6回本部役員会と講習会(西尾張ブロック担当)

日 時：3月23日(日) 午後1時30分～(講習会は午前10時～)

場 所：扶桑町中央公民館(予定)

その他：本部役員会と講習会は25年度より各ブロック持ち回りで担当しております

本部役員会は役員だけでなく会員各位もオブザーバーとして参加でき本部役員会の様子を覗く良い機会となります。奮っての参加をお待ちしております

※ 各支部の主な活動

・稲 沢 1/18：稲沢 防災リーダー養成塾(3回目)

・江 南 1/18・19 2/1・2(延べ4日間)：

5市町(犬山・江南・小牧・大口・扶桑)防災カレッジ

・犬 山 1/12：小島町自主防災訓練

3/2 ：丸山天白自主防災訓練

・一 宮 1/12：研修会「クロスロードゲーム」食事会

2/19：市自主防災リーダー研修

2/22：北名古屋 研修会「クロスロード」

2/23：支部定期総会(第10回)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

平成26年度は皆様の防災リーダー会・APLA 通信を通じて情報交換できます事を期待しております。

APLA 通信を楽しみにしに待っていて下さる方のために良い記事にしていきたいと思えます。

原稿をお寄せください。お待ちしております。

さて、余白がありますので危険予知の話題を -----

皆さんは工事現場を朝早く覗くと、職人さんたちがラジオ体操しているのを見かけられたことがあると思います。ラジオ体操は朝の固まった身体をほぐす大切なイベントです。

その後、その日の作業の流れ、各職方の作業の内容、安全作業に関する指示と家訓が行われます。

さらに重要なのは、各職方が作業着手前に独自で行う危険予知活動(運動とも云います)なのです。今日の作業内容にどのような危険が潜んでいるか予測し、その対策を討議し討議内容を遵守するようお互い誓いあいます。危険予知活動は毎日・毎朝繰り返し行います。

「危険予知活動」は日常の私たちの生活にも応用できます。

車の運転、自転車乗車、道路の歩行、屋内では火の取り扱い等など身近にたくさん活用できます。

地震への備えの心構えは正に「危険予知活動」の最たる例ではないでしょうか。

自身は勿論のこと、防災リーダー会の活動を通しての「防災・減災啓発活動」を危険予知活動の目線で見返すことも大切なことと思われま。